【　復活のトロパリ　第３調　】



【　日本の亜使徒聖ニコライのトロパリ　第４調　】





【　日本の亜使徒聖ニコライのコンダク　第４調　】




みのおんちょうをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
恩寵與教會建
たり、いまこのきょうかいのためにいのり
今此教會爲祈
たまえ、けだしわれらそのしょしはなん
給蓋我等其諸子爾
ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
呼我善牧者慶
べよ。

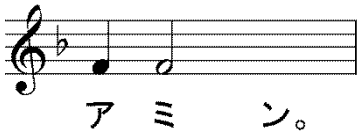
【　復活のコンダク　第３調　】


いまもいつもよよに、アミン。
今何時世世
じれんなるしゅよ、なんぢはいまはかよりふ
慈憐主爾今墓復
くかつして、われらをしのもんよりのぼせ
活我等死門升
たまえり。いまアダムはたのしみ、
給今樂
エヴァはよろこび、しょよげんしゃはれっそとと
歡諸預言者列祖偕
もにたえずなんぢのけんぺいのしんせい
絶爾權柄神聖



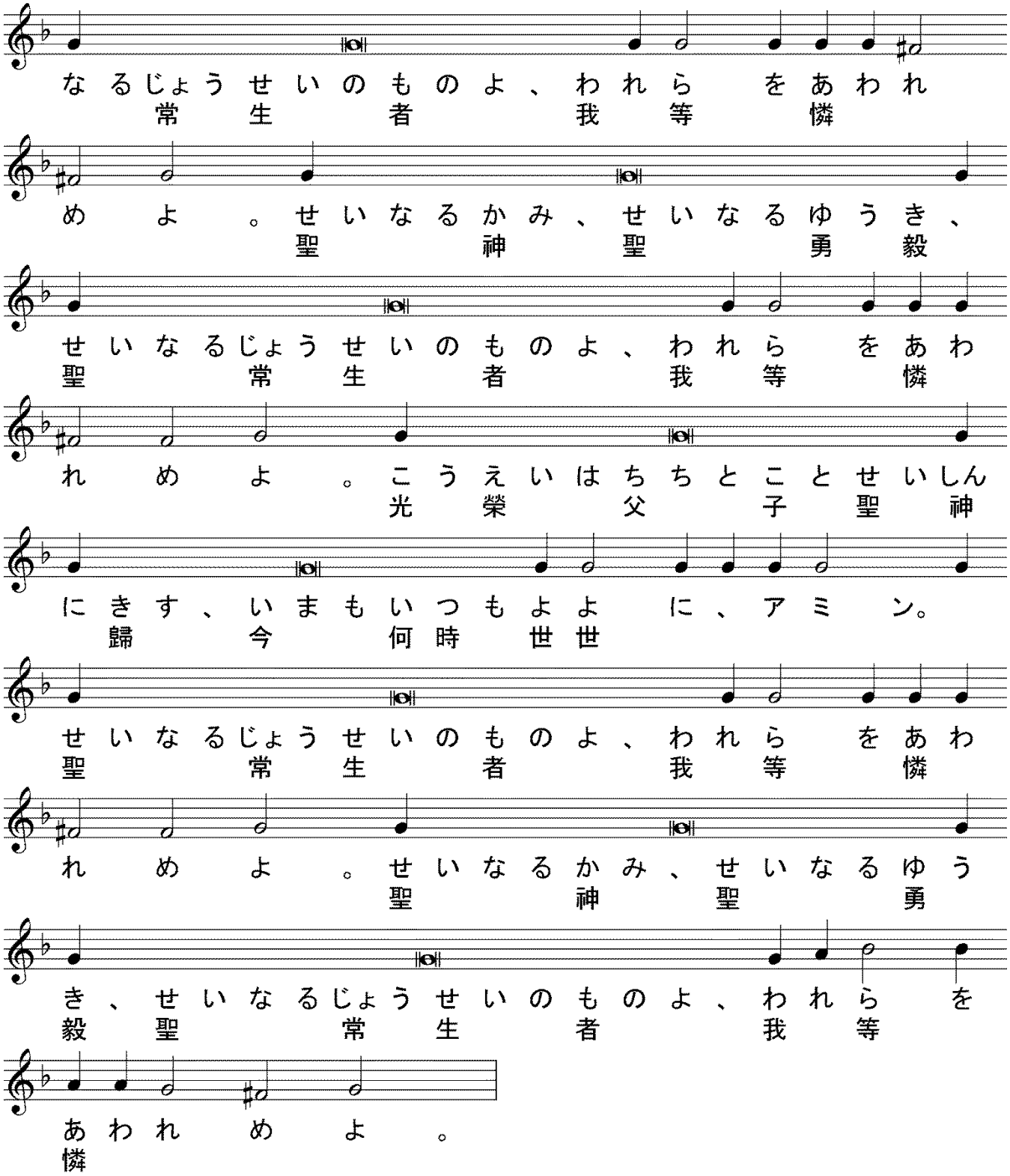
司祭)（ 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 ）

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、



【 聖三祝文 】





司祭)（　黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、　）

【　提綱　主日第３調　】

司祭)　愼みて聽くべし、衆人に平安、

誦經)　爾の神にも、

司祭)　睿智、

誦經）プロキメン、第三の調、我が神に歌い歌えよ、我が王に歌い歌えよ、



誦經）萬民よ、手を拍ち、歡の聲を以て神に呼べ、



誦經）我が神に歌い歌えよ、



【　使徒經　200端　ガラティヤ書1章11節～19節　】

司祭）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがガラティヤ人に達する書の讀、

司祭）謹みて聽くべし、

誦經）兄弟よ、我爾等に告ぐ、我が傳えし福音は人に由るに非ず。蓋我人より之を受け、之を學びしに非ず、乃イイスス　ハリストスの默示に由るなり。爾等は我が先にイゥデヤ教に在りし時に行いし所を聞けり、即我甚しく神の教會を窘逐し、之を殘害し、且イゥデヤ教に進歩して、我が同族の中の年相若しき多くの人に越え、極めて先祖の遺傳に熱中せり。然れども我が母の胎より我を簡びて、其恩寵を以て我を召しし神が、悦びて、其子を我が内に顯し、我をして之を異邦人に福音せしめんとせし時、我直に血肉と相謀らず、亦イェルサリムに上りて我より先に使徒と爲

りし者を見ず、乃ちアラヴィヤに往き、後亦ダマスクに返れり。嗣ぎて三年を越えて、ペトルを見んが爲にイェルサリムに上り、十五日間彼と偕に居たり。他の使徒は、主の兄弟イァコフの外、誰をも見ざりき。

＊＊

（比較用　口語訳）兄弟たちよ。あなたがたに、はっきり言っておく。わたしが宣べ伝えた福音は人間によるものではない。わたしは、それを人間から受けたのでも教えられたのでもなく、ただイエス・キリストの啓示によったのである。ユダヤ教を信じていたころのわたしの行動については、あなたがたはすでによく聞いている。すなわち、わたしは激しく神の教会を迫害し、また荒しまわっていた。そして、同国人の中でわたしと同年輩の多くの者にまさってユダヤ教に精進し、先祖たちの言伝えに対して、だれよりもはるかに熱心であった。ところが、母の胎内にある時からわたしを聖別し、み恵みをもってわたしをお召しになったかたが、異邦人の間に宣べ伝えさせるために、御子をわたしの内に啓示して下さった時、わたしは直ちに、血肉に相談もせず、また先輩の使徒たちに会うためにエルサレムにも上らず、アラビヤに出て行った。それから再びダマスコに帰った。その後三年たってから、わたしはケパをたずねてエルサレムに上り、彼のもとに十五日間、滞在した。しかし、主の兄弟ヤコブ以外には、ほかのどの使徒にも会わなかった。

＊＊

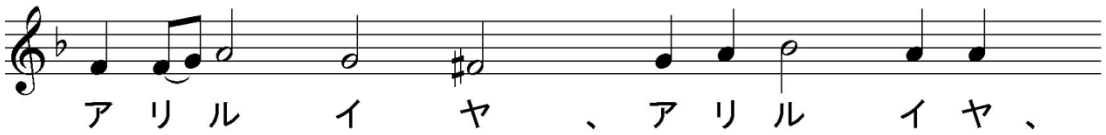
【　アリルイヤ　主日第３調　】

司祭）爾に平安、

誦經）爾の神にも、

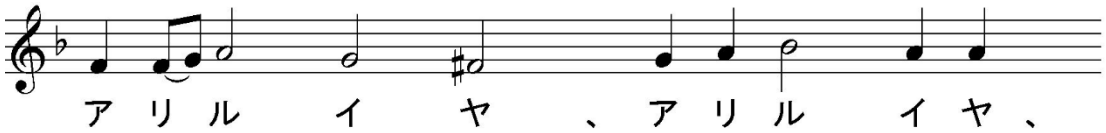
司祭）睿智、

誦經）アリルイヤ、



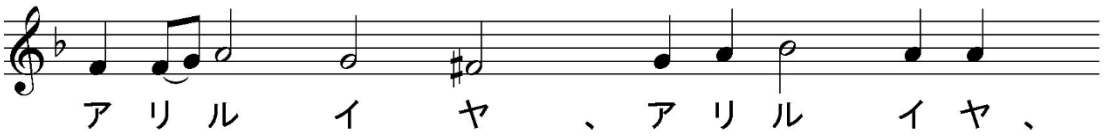


誦經）主よ、我爾を恃む、願わくは我世世に羞を得ざらん、





誦經）我が爲に堅固なる避所となりて、我に常に隱るるを得しめ給え、





司祭）（ 黙誦：人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誡を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 ）

【 福音經（エヴァンゲリオン） ルカ福音書 26 端 6 章 31～36 節 】

司祭）睿智、粛みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭）ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭）謹みて聽くべし、主曰えり、人の爾等に行わんを欲する事は、爾等も是くの如く之を人に行え。爾等若し爾等を愛する者を愛せば、爾等に何の感謝かあらん、

蓋罪人等も彼等を愛する者を愛す。若し爾等に善を行う者に善を行わば、爾等に何の感謝かあらん、蓋罪人等も是くの如き事を行う。若し返さるる望ある者に借さば、爾等に何の感謝かあらん、蓋罪人等も數の如く返されん爲に罪人等に借すなり。然れども爾等敵を愛し、何をも望まずして善を行い、又借し與えよ、則爾等の賞は多からん、爾等至上者の子と爲らん、蓋彼は恩に負く者及び惡しき者に慈愛を施す。故に爾等慈憐なること、爾等の父の慈憐なるが如くなれ。

＊＊

（比較用　口語訳）人々にしてほしいと、あなたがたの望むことを、人々にもそのとおりにせよ。自分を愛してくれる者を愛したからとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、自分を愛してくれる者を愛している。自分によくしてくれる者によくしたとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、それくらいの事はしている。また返してもらうつもりで貸したとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でも、同じだけのものを返してもらおうとして、仲間に貸すのである。しかし、あなたがたは、敵を愛し、人によくしてやり、また何も当てにしないで貸してやれ。そうすれば受ける報いは大きく、あなたがたはいと高き者の子となるであろう。いと高き者は、恩を知らぬ者にも悪人にも、なさけ深いからである。あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ。

＊＊



※聖体礼儀③（金口イォアン聖体礼儀）へ